１月１９日　創世記１章２６節、２章１５節　【解説と黙想】

人間の務め

〈人間の創造〉１章26節ａ

神（エロヒーム：畏敬と力を表す“尊厳の複数”の形での神名）は、創造の第六の日に人間を造られた。人間の創造は、他の被造物とは異なる。人を造るに際して、神は自問自答するごとくに「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」、と神の熱情と興奮が伝わるような決意表明からも、他の被造物の創造とは全く一線を画す。そして何よりも、神に似たものとして人が神の像（かたち）に造られたことは、驚きに値する。神に似た神の像とは、外形的な“すがた”ではなく、神の本質の「まことの義と聖において（ハイデルベルク信仰問答問６）」また、「知識と義と聖において（ウェストミンスター小教理問答 問10）」の“似像”である。人間に対するこの特別な取り扱いは、神の創造の秩序の最終段階として、まるで陶器師が作品を仕上げるように、自ら「土の塵（ちり）で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた」（創2：7）ことからも明らかである。しかし、どれほど似たものとされても、唯一の神は無比無類の創造主であり、人間はどこまでも－他のあらゆる被造物と同じように－被造物であることには変わりない。

〈人間の務めⅠ～地を治める〉１章26節ｂ

被造物すべての支配権は創造主にあるが、「神はご自分にかたどって」創造した人間に、全被造物すなわち全地を“従わせ・支配し・統治する”権限とその任務を授けて「祝福された」（創1：28）。詩編では、神の奇（くす）しき人間創造のわざと人間に与えられた使命の光栄を詠っている。「神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としていただかせ／御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置かれました」（８編６，７節）。

〈人間の務めⅡ～“耕し守る”〉２章15節

「天地万物は完成され」（創2:1）たとき、まだ木も草もなく、雨もなく、「土を耕す人もいなかった」（創2：5）。しかし、土が水で潤され、人が造られると、「主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた」（創2：8）。地を治めることの任命を受けた人間の、その具体的な任務は、神の園に住み、そこを「耕し守る」ことだった。後に罪と堕落によって、「土は呪われるものとな（り）……土は茨とあざみを生えいでさせ……（人は）顔に汗を流してパンを得る」（創3:17～19）と、「耕し守る」労働には相当の労苦が伴うことになるが、本来的に“労働”は、創造された人間の必然的で、光栄ある祝福された務めであった。　（小川　洋）

《参照箇所》　詩編８編６～９節、ヤコブの手紙（協会共同訳）３章７節
《教理問答》　子どもと親のカテキズム 問４，５，１７，１８，４４、ハイデルベルク信仰問答問６、ウェストミンスター小教理問答　問１０、ウェストミンスター大教理問答　問２０
《参考文献》　市川康則 著『改革派教義学３ 人間論』p.３２～３４（一麦出版社）

１月１９日　創世記１章２６節、２章１５節　【説教展開例】

人間の務め

◆…… 単元の目標 ……◆

人間には世界を治める光栄に満ちた務めがあると知ろう。

◇…… 説教のねらい ……◇

神により神の像に造られた人間に与えられた務めを知り、さらに、神の子どもとしての務めを主体的に考えるように導く。

「神さまが造られたものを大切にする」

〈とくべつな人間創造〉

新しい年になってから、聖書の初めに書いてある“天地創造”と“生命の創造”をお話しました。それらを造ったのは誰でしたか？すべてのものは、神さまによって造られました。人間は、創造の第六の日に、造られたものの最後に、たいそう大事に造られました。

人間以外の造られたものは、神さまが言葉を語られると、その言葉どおりのものになりました。しかし、人間はちょっと違います。神さまは、人間をお造りになる前から、“神さまご自身に「似せて」神さまに「かたどって」造ろう”と、ご自分でご自分に確かめるように言われました。私たちも、何か新しいことや大事なことをしようとするとき、“よし、やるぞ！”と、おもわず口に出したりすることがあります。神さまも、それまでの被造物とは違って、あらかじめ人間の創造を決意されて、期待して、丁寧に造られたのです。 実際に、「主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」（創2：7）と、先週学んだ通りです。熱心に集中して人間を造られたことが伝わります。人間は、造られたものに過ぎませんが､造られたものの中で「冠」（詩8：6）と言われるほど、神に愛され喜ばれる存在なのです。

〈造られたものを大切にするつとめ〉

そして、人間には、すべての造られたものの“冠”としてふさわしいつとめが与えられました。それは、神の造られた全世界のあらゆるものを‹治めるつとめ›です。造られたのは、神さまですから、神御自身が造られたものすべてを治められて当然です。しかし、そのすばらしいつとめを、神の代わりにつとめるようにと、人間にお命じになったのです。たいへん責任のあるつとめですが、神さまからの光栄ある大きな恵みです。人間にその力があるから与えられたのではありません。人間を愛し期待して、神さまがそのつとめができる力をも与えてくださるのです。

〈“耕し守る”つとめ〉

人間に、造られたものを大切にする（＝

全世界を治める）大きなつとめが与えられましたが、人間はどんな働きをすればよいのでしょうか。それも、神さまが備えて与えられました。神さまは、エデンに園を造って、人間をそこに連れて来られました。そして、人間をエデンの園に住まわせて、そこを耕し、またその園を守るように命じられました。造られたものを大切にするつとめは、園内に住み、神さまの園を耕し、神さまの園を守ることから始まりました。土で造られた人形の「その鼻に神の命の息を吹き入れられ」て命ある「生きる者」とされた初めから、働くことは人間のつとめだったのです。

ここで、少し考えてみましょう。“耕す”という働きはわかりますが、“守る”という働きは何でしょうか？ 園を守るとは、門番のように見張りの役目をすることでしょうか？　もとのヘブライ語の旧約聖書では、創世記２章15節と続く16節は、三つの言葉（動詞）がつながっています。日本語に直訳すると、「……エデンの園を耕すため、またそれを守るために。16そして、命じた、主は。……」となります。だから、園を守ることは、神に聞き従い、園についての神のお言いつけ（お命じ）を守ることも含んで、「守る」と言われているのではないでしょうか。

（※神が人に命じられた内容は、来週の主題「罪と堕落」で学ぶので、以上で止めておく）

〈神の子どもとしてのつとめ〉

私たちは今、エデンの園にはいません。2020年の、日本の○○に住んでいます。まだ子どものですが、神さまに愛され神さまを愛している神の子どもです。そんな私たちは、神さまがお造りになったものをどうすればよいでしょうか。『子どもと親のカテキズム』には、次のようにあります。「問18　神さまのかたちに似せて造られた人間は、どのように歩むのですか。答　神さまを礼拝し、神さまを喜び、家族や友だちを愛し、神さまがお造りになったものを大切にして、神さまに仕えて歩みます」。どんなときにも、神さまを喜び、神さまに喜ばれるようにされたいと願います。

（小川　洋）

《今週の暗唱聖句》

我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。（創世記１章２６節）

１月１９日　創世記１章２６節、２章１５節　【幼稚科】

神さまに造られたものを大切にする

これは腕時計です。誰が、何のために作ったと思いますか。……そうです、時間が分かるように、人間が作ったのです。

神さまは私たち人間を、何のために造ってくださったのでしょうか。人間だけが、神さまに似せて造られたのはなぜでしょうか。

それは、神さまを愛し、礼拝するためです。

神さまがくださった家族や友だちを愛し、大切にすること、神さまが造られた空や、空気、食べ物、木や花などを大切にすることです。

神さまがまず私たちを愛して下さいました。私たちは神さまにお応えして、神さまを愛するのです。

〈描いてみよう〉

準備：画用紙、色鉛筆など

３週にわたり、天地創造、人の創造、人の務めについて聞いてきた。ごく短く復習し、心に浮かんだ場面を自由に描かせる。

描いている絵を見ながら話しかけ、何が子どもたちの心に残ったか、何を喜んでいるかなどを知る。

１月１９日　創世記１章２６節、２章１５節　【小学科上級・中学科】

人間の務め

１．創世記１：26を読みましょう。

①神さまはなぜ「我々にかたどり、我々に似せて人を造ろう」とされたのでしょうか。
創世記２：７も読んでみましょう。

②神さまが人にすべての被造物を支配させようとしたのはなぜでしょうか。

２．創世記２：15を読みましょう。

①神さまが人をエデンの園に連れてきた目的は何ですか。他の動物ではなく人が選ばれた理由は何でしょうか。創世記２：１、５、８も読んでみましょう。

②神さまが人を選ばれて、期待されたことについて考えてみましょう。